

【ポスター発表】

医療ソーシャルワーカーの社会的認知の現状

○ 博友会 氏名 平田 明日香 (009595)

岡村 綾子 (金城大学・003446)

キーワード：医療ソーシャルワーカー，社会的認知，取り組み

1. 研究目的

2008年に行われた日本学術会議・社会学委員会社会福祉学分科会での資料にて「ソーシャルワーカーに期待されることが多い反面，実際に担っている活動内容が社会からは見えにくく，ソーシャルワーカーに対する社会的認知度が低い現状にある」¹⁾と指摘されている。したがって社会福祉士を基礎資格とする医療ソーシャルワーカー（以下 MSW）の役割や仕事内容の理解は一層困難であると考えられる。また，MSW が社会的に知られてないことは MSW を活用する人，さらに MSW 自身にとって大きな不利益である。MSW を活用する人である患者や地域住民は，適切な時期での相談機会を逃し，問題を抱え込むことで困難な状況に陥る可能性がある。さらに MSW を病院内で活用する他職種にとっても MSW の適切な活用方法を知らないために，適切な時期に MSW に患者をつなぐことが出来ない。また MSW 自身にとっては MSW を適切に理解していない組織で働いている場合，業務指針に則った支援を行うことが困難な状況に陥る。MSW の業務が入退院支援のみであると誤解されている状況では本来の役割の発揮が難しい。MSW が社会的に認知されることが必要である。しかし，MSW の社会的な認知についての研究は限られている。MSW がどの程度の人に理解されているかについての研究は MSW の認知度調査と，MSW を院内外に知らせるための方法についての二つがある^{2)~3)}。

以上より MSW の社会的な認知の現状が分からないため，本研究では MSW の社会的認知と，社会的認知の向上についての取り組みの現状を明らかにする。

2. 研究の視点および方法

1) 調査協力者 A 県内の医療ソーシャルワーカー協会に属する MSW 全員 236 人が所属する病院へ調査用紙を郵送した結果 73 人から返送された。記入漏れなどを除いた有効回答者数は 56 人で，この 56 人が調査協力者となった。

2) 調査内容 入院患者，外来患者，および一般の人のそれぞれから MSW は知られているか，MSW を認知してもらうための取り組みの有無とその内容，今後取り組むべき内容についてなどを尋ねた。

3. 倫理的配慮

本研究は，日本社会福祉学会研究倫理指針を厳守し実施した。調査協力者に対しては研究の趣旨を記載した説明書と調査用紙を郵送し，調査への協力は任意であることも記載し，返送をもって同意いただいたこととした。また，調査結果の検討・分析に際して個人特定ができないように配慮した。本研究は中部学院大学研究倫理委員会の承認（C21-0041）を

得た。本研究に関して開示すべき利益相反関連事項はない。

4. 研究結果

MSWは知られていないという回答が多かった。次にMSWの社会的認知向上のための取り組みを行っていると答えたMSWは55.4%であった。MSWの社会的認知の向上のための取り組み内容については、当事者に直接MSWの存在を伝える、当事者やその関係者の目に止まりやすい場所で広報、一般市民大勢に向けて広報の三種類に分類できた。今後行うべきと考える取り組みについては、一般市民大勢に向けて広報の回答が増えた。それに取り組む者としてMSW個人ではなく、協会や団体としての取り組みを期待する回答が多くみられた。職能団体としてMSWの社会的認知の向上のための取り組みを行っているのを見聞きしたことがあるか、については約半数がないと回答していた。

5. 考察

MSW自身がMSWの社会的認知の低さを感じており、社会的認知の向上のための取り組みを半数以上が行っているにも関わらず、MSWの社会的認知は低い状態が続いている。MSW個人の取り組みには限界があり、協会等の職能団体として地域の教室や学校に出てMSWを広報すること、ニュースやドラマ、マンガ、SNSにとりあげてもらふこと、外部の会議や他職種職能団体との連携などを期待している。しかし、職能団体の取り組みは現状として不十分である。

田中⁴⁾は「ソーシャルワーク専門職は『みえざる専門家』と揶揄されることもあるほど、他の対人援助専門職に比べて、イメージすることが困難な職業である」としており、ドラマなどのフィクション作品でMSWが扱われることが社会的認知の向上につながると考え、フィクション作品に対しての協力・監修を積極的に引き受け、その職業像と魅力を伝えていくことが社会的認知の促進につながるとしている。MSWはこれまで実践者による現場での積み上げが評価され続けてきたが、縁の下の力持ちとして本当に見えないままではその実践を守り、推進していくことが不可能な時期にきている。個人レベルだけでなく職能団体として取り組むべきことは多い。

文献

- 1) 社会学員会社会福祉学分科会(2008)近未来の社会福祉教育のあり方について。日本学術会議, 第59回幹事会
- 2) 一般社団法人 東京都医療ソーシャルワーカー協会, https://tokyo-msw.com/blocks/brock4/files/20160522_anketo.pdf (2022年12月12日閲覧)
- 3) 四方克尚(2001)医療ソーシャルワーカーを病院内外に認知させるための具体的行動について考える。医療と福祉 35(1)P48-52
- 4) 田中秀和(2013)コミュニティソーシャルワーカーを描いたテレビドラマにおける職業像の研究。医療福祉学会誌, 14(2)P33-38